

3-3 関東南部の地殻変動（水準測量）

国土地理院 地殻活動調査室

関東南部が観測強化地域に指定される発端となった地殻の異常隆起現象について、国土地理院の実施した水準測量以外に、裏づけとなるものとして、千葉県庁で実施している地盤沈下のための水準測量の結果を解析してみた。

この測量は昭和35年より毎年実施されており、地域も浦安→千葉→姉崎→木更津→富津と徐々に拡大されてきた。また幹線ルートについては地理院が直営で観測を実施したりして、一般的に地理院関東地方測量部が指導を行なっている。

結果はすべて東京原点を不動としており、精度も地理院の一等水準測量と同程度のものである。

今回は第1図のように富津（FT）から北、君津（KM）、木更津（K）を経て袖ヶ浦（S）までの比較的内地部にあった観測点の変動を求め、昭和40年からの変化で表わしてある。

富津から木更津の南にかけての観測点の結果はすべて隆起の傾向を示している。袖ヶ浦では最近はやゝ沈下の傾向であるが、この沈下は東京湾沿岸の工業化による地下水のくみあげが原因と思われる。

要するにこの結果からも房総半島中部の隆起は、地理院の測量以外でも裏づけられたことになるう。

ただ一番南のFT16以外の点で昭和40年から昭和41年にかけての隆起はすべての観測点でやゝ異常と思われる。この期間の観測にやや人為的な誤差が入って、全点が下駄をはいた変動が得られた可能性も考えられる。（辻 昭治郎）

